

- 1 駅えきのホームを離れて車外はなが暗しやがいくなると、地下鉄ちかてつの窓は鏡かがみになる。
- 2 普段ふだんは人込みひとごのなかで意識いしきもしないが、多くの企業おおきぎやうで仕事納めしごとおさとなり、▼
通勤客つうきんきゃくの少ないこの時期じきは窓の鏡かがみとしばしば対面たいめんする。
- 3 いくらかは気取きどって前まえに立つ洗面所せんめんじょの鏡かがみとは違ちがって、無防備むぼうびな姿を狙すがたわれるせいか、▼
いつもこんなふきげんに不機嫌かおそうな顔まちで街を歩あるいていたのだ、と驚おどろくことがある。
- 4 老けたなあと、吐息といきがもれることもある。
- 5 鏡かがみはうぬぼれの醸造器じやうぞうきであり、自慢じまんの消毒器しょうどくきでもあと、▼
夏目漱石なつめそうせきの小説しょうせつで猫ねこが語かたっていた。
- 6 窓の鏡かがみを見るたび、▼
自慢じまんの芽めが金輪際こんりんざい生しょうじないよう 完膚かんぷなきままでに滅菌消毒めつきんしょうどくされたような気分きぶんになり、▼
年としの瀬せの地下鉄ちかてつは妙みょうにほろにがい。
- 7 日本にほんに地下鉄ちかてつが生まれたのも いまごろの季節きせつである。
- 8 東京とうきやうの浅草あさくさ—上野間うえのかんが開通かいつうしたのは 1927年12月30日、▼
きょうで80年はちじゅうねんになる。
- 9 初日しょにちは約10万人やくじゅうまんにんが競きそって乗車じやうしゃしたという。
- 10 大都市だいにしのシンボルに初めて触はじれた人々ひとびとの、▼
心こころの弾みはずを数字すうじが伝つたえている。
- 11 いまではもう、なくてはならぬ便利べんりな足あしだが、心こころの弾みはずからは遠とおくなった。
- 12 蒸気機関車じやうききかんしゃや路面電車ろめんでんしゃに乗のるのを楽たのしみに、都会とかいから地方ちほうに出でかける時代じだいである。
- 13 こう見みえて、おれも昔むかしはちょっと騒さわがれたのよ……と、地下鉄ちかてつはおすがたのが姿を車窓しゃそうに映うつし、▼
若き日わかの追憶ひに浸つっているかも知れない。